

5月3日

学芸講座 「織田信長の上洛と三好一族」に寄せられたご質問に

講師・天野忠幸氏(天理大学人文学部教授)

Q&A

がお答えします

Q 三好長治・義賢（実休）について教えてください。

A 三好実休は三好長慶の弟で、長治は実休の長男です。実休・長治父子の政治信条は、長慶のように「足利将軍家を擁立しなくて良い」ではなく、「足利義栄を将軍にしたい」です。今回の講演では、篠原長房と同じ考えになります。

Q 三好家と日蓮宗（法華宗）との関りは？

A 元々、三好家は法華宗や日蓮宗を信仰していませんでした。しかし、三好長慶の父の元長が細川晴元や一向一揆に敗れた際、堺の法華宗寺院である顕本寺が最期の場所を提供してくれただけでなく、顕本寺の僧侶が戦って、元長が自害する時間稼ぎをしてくれたので、その恩義に報いようと、長慶や実休たちが法華宗や日蓮宗の寺院を保護するようになりました。

Q 信長の家人である明智光秀の立場、幕府から織田家へ移る状況を知りたい。

A NHKでも描かれました「本國寺の戦い」において明智光秀が活躍したことで、信長は足利義昭の家臣にすごい武士がいると認識するようになりました。それ以降、義昭方の代表者として対応していくことになります。そうした中、延暦寺の焼き討ちで光秀に功績があったこともあり、信長は自分の家臣であった森可成が討死して空いていた近江国志賀郡の領主に抜擢します。ここで光秀は信長と義昭に両属、ないし信長に重きを置くようになります。そして、信長と義昭の関係が決裂すると、光秀は志賀郡の領主としての地位を守るため、信長に味方します。

Q

何で信長と義昭は将軍・義輝を殺した松永久通と手を組んだのでしょうか？

A

義昭からすると、兄の義輝を殺した松永久通は怖い存在でした。しかし、久通の父親である松永久秀は義昭を保護し、久通が手を出さないように戒めています。ですので、松永久秀は信用できる存在となりました。そして、三好家が三好三人衆と松永親子に分裂し戦いが始まると、松永家の主導権は現当主である久通ではなく、百戦錬磨の久秀が大御所の立場を捨て、現場に復帰するようになります。そのため、久通というよりは、久秀と手を組んだ感覚だったのでしょう。

信長にしても、三好三人衆が大和、そして伊勢へ進出するのを恐れており、松永久秀に大和で食い止めて欲しかったのです。

Q

義昭へ五カ条を出した副状を付ける部分について、管領として職務遂行とのものであるが、そもそも信長は幕府の官職についていなかったのではないかな？

A

信長は管領そのものにはなっていません。しかし、義昭からの恩賞として管領並みの待遇を受けることになりました。管領になる実利はほとんどありません。儀式の時に将軍に随伴するぐらいで、16世紀になると、儀式の当日や数日前に就任し、儀式が終わるとひどい場合は即日辞任することもあります。管領はむしろ儀礼上の栄誉・名誉です。諸大名に手紙を書く際のマナー（書札礼）で、格上として振る舞えるのです。そうしたことが他の大名家の文書から判明してきました。現在で言うと勲章を貰える、皇居の園遊会に招待してもらえるとといったことにあたりります。

しかし、信長にとっては重要です。信長は尾張守護代家の分家格の出身です。そして、尾張の守護家は、三管領家の筆頭にあたる斯波家なのです。信長として管領に準ずる待遇を受けることは、主家を超えたことを名実ともに将軍より公認されたことを示すものでした。だからこそ、同じく斯波家の家臣であった越前の朝倉義景を刺激することになります。

ちなみに幕府の官職を断り、堺や大津、草津に代官を置くことを認めてもらったという逸話はうそです。